

再 評 価 書

箇所名	松阪公園大口線外1線		事業名	街路事業	課名	県土整備部 都市政策課 (松阪建設事務所)
事業概要	工期	H14年度～H31年度	全体事業費	10,100百万円 (負担率:国0.55:県0.29:市0.16)		
	(下段:前回)	H14年度～H26年度	(下段:前回)	9,600百万円 (負担率:国0.55:県0.29:市0.16)		
事業目的及び内容						
<p>■当該路線の状況</p> <p>都市計画道路 松阪公園大口線は、松阪市内中心市街地と国道42号及び23号を連絡する幹線道路として、JR紀勢本線・名松線、近鉄山田線の3線を跨いでいます。</p> <p>当路線の沿線には、松阪市役所、松阪市民病院、JR松阪駅、近鉄松阪駅、松阪警察署、広域消防本部など多くの公共施設があり、市民生活に欠かせない道路です。また、当路線は伊勢自動車道松阪IC及び国道42号と防災拠点である松阪市役所を結ぶ第1次緊急輸送道路に指定されており、大規模災害の発生時には、避難・救助、物資の供給、諸施設の復旧等の広範な救急に利用される重要な道路です。</p> <p>しかし、当該区間は鉄道と平面交差しているため、踏切遮断による慢性的に交通渋滞が発生しています。また、踏切部は、自動車及び歩行者自転車が混在するため危険な状況にあります。</p> <p>なお、鉄道立体交差化の本線アンダーパス部約290mについては、平成28年3月に供用を開始しています。</p>						
<p>■事業目的</p> <p>当該事業は、鉄道交差の立体化により踏切を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、歩行空間の整備を行い、歩行者自転車の安全の確保を図ります。</p> <p>また、災害時の緊急輸送に重要な役割を果たす緊急輸送道路としての機能強化を図ります。</p>						
<p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画期間 18年間 (平成14年度～平成31年度) ・全体事業費 10,100百万円 (工事費:5,910百万円、用地補償費:4,190百万円) ・計画延長 L=820m (起点) 松阪市本町～ (終点) 松阪市鎌田町 ・幅員 W=16.0m (一般部) ・主要構造物 鉄道立体交差化 (アンダーパス) 						
事業主体の再評価結果						
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>平成14年度に事業着手し、平成23年度に再評価を実施しましたが、再評価実施後一定期間を経過した時点で継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価を行いました。</p>						
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1 事業の進捗状況</p> <p>平成27年度末の事業進捗率は、事業費ベースで96% (工事94%, 用地99%) となっています。</p> <p>平成28年3月に鉄道立体交差化 (アンダーパス) 工事が終了し、全体延長820mのうち約290mを完成供用しています。</p> <p>2-2 今後の見込み</p> <p>平成31年度の全線完成に向け事業を推進します。</p>						

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

当該路線は、「松阪市都市計画マスタープラン(H20.3)」において、市内の交通流動の円滑化を担う幹線道路として位置づけられています。また、「松阪市交通バリアフリー基本構想」において、重点整備地区の特定経路に設定されており、安全な通行環境の確保及び中心市街地の活性化の観点から、当事業の必要性は高い状況にあります。

また、東日本大震災や熊本地震の発生により、緊急輸送道路の役割が再認識されています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

費用便益分析マニュアルに基づき、費用便益分析を行った結果は、

走行時間短縮便益	122.6 億円
走行経費減少便益	11.4 億円
交通事故減少便益	1.2 億円
総便益	135.2 億円
総費用	122.7 億円

費用便益比 (B/C) は「 1.1 」となります。

4-2 その他の効果

① 県民の安全な暮らしの確保

鉄道と道路が完全に分離され、安全が確保されます。
踏切の除去により迅速な救急活動につながります。

② 地域住民の安全・安心の向上

踏切の除去により、交通渋滞が解消され、周辺の幅員が狭い生活道路に進入していた迂回する車両が減少し、地域住民の安全・安心に寄与します。

③ 無電柱化による防災機能や景観の向上

無電柱化を行うことにより、緊急輸送道路としての機能の向上、中心市街地での景観の向上、歩行空間の確保につながります。

5 コスト縮減の可性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

LED 道路照明の導入について検討を行った結果、従来の水銀灯やナトリウム灯よりライフサイクルコストに優れる LED 道路照明を施工し、コスト縮減を図りました。また、現場から発生する残土について、他工事への流用を行い、コスト縮減を図りました。

5-2 代替案

現在の事業進捗状況から代替案はありません。

再 評 価 の 経 緯

当事業は、平成 14 年度に事業着手し、平成 23 年度に再評価を実施しています。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第 3 条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第 5 条 1 項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。